

# 「チーム 新・湯治」 平成30年度活動報告

- 内容
1. 「新・湯治」及び「新・湯治推進プラン」の内容
  2. 「チーム新・湯治」の概要
  3. 「チーム新・湯治」平成30年度活動報告

令和元年 6 月 4 日（火）

「チーム新・湯治」運営事務局

## 温泉

- 国民共有の資源であり、温泉地の核となり、将来世代へ引き継ぐもの  
日本は温泉や温泉地が持つチカラを十分に活用していないのではないか

古くからの  
温泉地に長期滞在し、  
入浴して病気を治療する  
「湯治」

団体旅行としての  
温泉地の発展  
療養や保養の場としての  
衰退

- ストレス社会、高齢化社会であり、ワークライフバランスが求められる現代において、社会全体として、リフレッシュや健康長寿のための場づくり、仕組みづくりが重要
- 官民一体となって地方創生、観光立国（インバウンド対策）を推進

## 新・湯治 とは

エビデンスも重視！

## 温泉地の役割を見直し、「新・湯治」を提案

- ・ 温泉入浴に加えて、周辺の自然、歴史・文化、食などを活かした多様なプログラムを楽しみ、地域の人や他の訪問者とふれあい、心身ともに元気になること
- ・ 年代、国籍を問わず楽しめる
- ・ 長期滞在を行うことが効果的

# 1. 「新・湯治」及び「新・湯治推進プラン」の内容

新・湯治 

## 新・湯治推進プラン

… 「新・湯治」を提供する場としての新しい温泉地のあり方、環境省や関係機関に求めることをまとめたもの

### 楽しく、元気になるプログラムの提供

- ・ 泉質、地域資源を活かしたプログラムの提供
- ・ 多様な温泉地間の連携による情報発信等
- ・ 年代、国籍を問わず、長期滞在しやすい宿泊プランづくり

### 温泉地の環境づくり

- ・ 外湯めぐりの充実といった「にぎわいの創出」
- ・ 周辺の自然環境等の地域資源を一体的に評価し、持続的な利用
- ・ 温泉地を拠点とした広域周遊、国立公園満喫プロジェクトとの連携

### 「新・湯治」の効果の把握と普及、全国展開

- ・ 温泉地全体の療養効果等を科学的に把握し、その結果の情報発信
- ・ 統一フォーマットの提示により、全国的なデータの蓄積、評価、公開
- ・ ストレス社会、健康長寿社会における重要性を踏まえた準備

### 推進体制の構築等

- ・ 地域会社設立や観光組織（DMO等）の活用による体制づくり、財源確保
- ・ 地域外の民間企業等との連携
- ・ 関係省庁の連携

国民保養温泉地が中核的・先進的な役割

# 1. 「新・湯治」及び「新・湯治推進プラン」の内容

新・湯治

## 「新・湯治推進プラン」実現に向けた環境省ロードマップ（2018 -2022年度）

1 「チーム 新・湯治」の活動を展開します。	「新・湯治」を普及し、「新・湯治」を提供する場としての新しい温泉地を作っていくために、考えを共有する地域、自治体、団体等を「チーム 新・湯治」として緩やかにネットワークでつなぎ、互いに情報・意見交換するとともに、温泉地と企業等のマッチングを促進します。 また、政府内の関係する省庁（内閣府、厚生労働省、経済産業省、観光庁等）と連携を進め、「チーム 新・湯治」ともつなげていきます。
2 全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを実施します。	温泉地で過ごすことのリフレッシュ効果等を把握する調査を全国で実施し、結果を温泉地のPR 等に活用します。また、調査実施の過程で、「新・湯治」の普及を図ります。
3 温泉熱の有効活用を進めます。	温泉熱の有効活用は、温暖化対策のみならず、燃料代等の節約にもつながり地域経済の安定においても重要ですが、まだまだ十分とはいえません。有効活用を促進するため、「温泉熱有効活用のためのガイドライン（仮）」を作成して普及を図るとともに、補助事業の効果的な運用を行います。
4 国民保養温泉地の活用方法を検討します。	国民保養温泉地は、国民の保養・休養の場として環境省が指定している温泉地であり、「新・湯治推進プラン」の中核的な役割を担うことが求められます。一方で、国民保養温泉地の知名度は高いとは言えず、プランの推進の過程で、国民保養温泉地の社会的な意義の改めて見直し、その向上に努めます。
5 国立公園満喫プロジェクト等と連携し、インバウンド対策を推進します。	外国人旅行者のニーズが多様化する中で、温泉地への旅行者も増加傾向にあります。また、国立公園ではインバウンドを推進する国立公園満喫プロジェクトが進行中で、外国人旅行者の受け入れ環境の整備が進んでいます。「チーム 新・湯治」において、インバウンドをテーマとしたセミナーを開催するなどにより情報提供を行うほか、国立公園満喫プロジェクトとの連携を行います。

「チーム新・湯治」運営事務局より報告

全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト事務局より報告

# 1. 「新・湯治」及び「新・湯治推進プラン」の内容

新・湯治

## (参考) ホームページのリニューアル

環境省  
Ministry of the Environment

新着情報

2019.5.13 **NEW** 全国「新・湯治」効果加算基準を開始しました

2019.5.10 **NEW** 国民保養温泉地の指定

2019.5.7 **NEW** 第4回「『チーム新・湯治』プロジェクト結果報告～」

2019.4.26 **NEW** 「チーム新・湯治」

2019.4.25 **NEW** 再生可能エネルギー

2019.4.24 温泉供給設備高効率化促進

温泉の保護と利用

温泉の定義

温泉法の概要

国民保養温泉地

温泉に関するデータ

関連資料

審議会等

都道府県連絡先一覧

リンク集

新・湯治の推進  
～温泉地の活性化に向けて～

チーム 新・湯治

新・湯治による効果の把握  
みんなの新・湯治プロジェクト

温泉熱の有効活用について

環境省  
Ministry of the Environment

本文へ | 音声読み上げ・文字拡大 | サイトマップ | お問い合わせ

POWERED BY YAHOO! JAPAN

検索

温泉の保護と利用

環境省 > 政策分野・行政活動 > 政策分野一覧 > 自然環境・生物多様性 > 温泉の保護と利用 > 新・湯治の推進

新・湯治の推進  
～温泉地の活性化に向けて～

新・湯治の推進  
～温泉地の活性化に向けて～

チーム 新・湯治

新・湯治による効果の把握  
みんなの新・湯治プロジェクト

温泉熱の有効活用について

温泉の保護と利用

温泉の定義

温泉法の概要

国民保養温泉地

温泉に関するデータ

関連資料

審議会等

都道府県連絡先一覧

リンク集

新・湯治の推進  
～温泉地の活性化に向けて～

チーム 新・湯治

新・湯治による効果の把握  
みんなの新・湯治プロジェクト

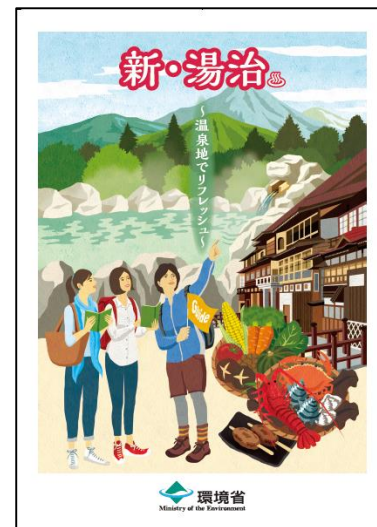
温泉熱の有効活用について



## 2.「チーム新・湯治」の概要

### ①「チーム新・湯治」とは

- ✓ 新・湯治の推進には、多様な連携が必要不可欠。
- ✓ 「チーム 新・湯治」は、温泉地を中心とした自治体、団体、企業等による多様なネットワークづくりを目指した取組。
- ✓ 本ネットワークを通じて、温泉地において多種多様な連携が生まれ、これまでになかった新しい取組が展開されることを期待。



### ②「チーム新・湯治」に入ると

ネット  
ワーク  
づくり

- ✓ 新・湯治の趣旨に賛同し、温泉地の活性化に取り組む自治体・団体・企業を、「チーム 新・湯治」とし、参加団体名や取組を環境省ホームページで掲載、環境省主催セミナーの開催及び全国温泉地サミット等への参加を通じてネットワーク化。



## 2. 「チーム新・湯治」の概要

チーム新・湯治♨

## セミナー

情報交換

- ✓ チーム員のみなさまを対象とし、温泉地活性化に関する各種テーマによるセミナーを開催。
- ✓ 環境省ホームページ、メーリングリスト（月1回）、全国温泉地サミット及びセミナー等、様々なチャンネルを通じて情報共有を行い、チーム員間での意見交換の場を設定。



＜第3回全国温泉地サミット5/25＞



＜チーム新・湯治HPページ＞

チーム 新・湯治。 チーム員一覧 (平成30年 10月31日 現在)			
1. チーム員の構成			
■ 自治体	26 名	■ 団体	40 名
■ 観光協会・温泉協会	19 名	■ 学生	37 名
■ 市町村・企業等	22 名	■ 個人	10 名
		計	156 名
2. チーム一覧			
自治体	26 名		
■ 東京都町田市湯治 (北山道)		■ 三重県桑名保健福祉研究所 (三熊鷹)	
■ 東京都山形市湯治 (山形道)		■ 三岐市 (美濃町)	
■ 千葉県 (二子・八潮・木更津・大津市) (播磨道)		■ 鹿野市 (山形道)	
■ 千葉県 (八千代・八千代市) (三城道)		■ 松本市 松島町市井湯治 文化・観光・スポーツ部	
■ 大分市 (熊本道)		■ 観光文化課 観光・文化・スポーツ推進課 (香川県)	
■ 群馬県 (群馬道)		■ 本庄市観光文化課 地域文化・自然環境課 (栃木県)	
■ 群馬県 (群馬道)		■ 熊本県大津市観光課	
■ 中津市観光課 (群馬道)		■ 観光文化課観光文化推進課 (熊本県)	
■ 津市 (八ヶ岳道)		■ 大分市 (熊本道)	
■ 津市観光課 観光部 津市観光課 (長野道)		■ 小笠原市 (熊本道)	
■ 上田市 (長野道)		■ 観光・地域・観光課・地域・観光課 (大分県)	
■ 山内市 (長野道)		■ 豊後高田市 (大分県)	
■ 上田市観光課 観光課 (長野道)		■ 須崎市 (大分県)	
■ 長野市 (長野道)		■ 中津市 (国体指定温泉地「竹田温泉」) (大分県)	
■ 熱海市 (三城道)		■ 松本市 (大分県)	
■ 長野市 (三城道)			
観光協会・温泉協会			
19 名			
■ 山形市温泉観光協会 (三川道)		■ 岐阜県湯郷観光協会 (岐阜道)	
■ 山形市温泉協会 (秋田道)		■ 静冈市観光協会 日本温泉協会	
■ 市温泉観光協会 (秋田道)		■ 市温泉観光協会 (新潟道)	
■ 新潟県湯沢観光協会 (新潟道)		■ 市温泉観光協会 (新潟道)	
■ 新潟県湯沢観光協会 (新潟道)		■ 市温泉観光協会 (山形道)	
■ 市温泉観光協会 (群馬道)		■ 市温泉観光協会 (群馬道)	
■ 市温泉観光協会 (群馬道)		■ 大泉市観光協会 (山形道)	
■ 市温泉観光協会 (群馬道)		■ 市温泉観光協会 (長野道)	

### ＜チーム員名簿＞



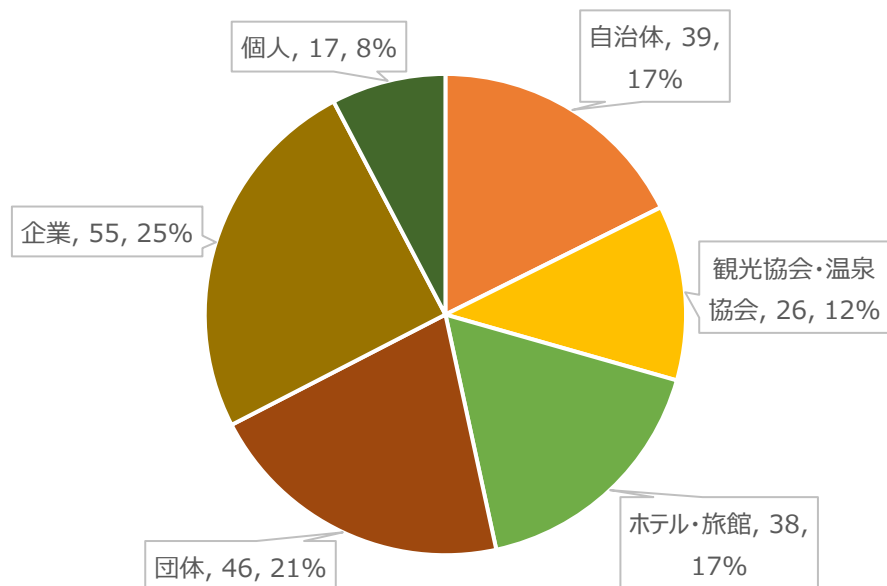
＜新・湯治セミナー in 阿賀野市10/19＞

## 2. 「チーム新・湯治」の概要

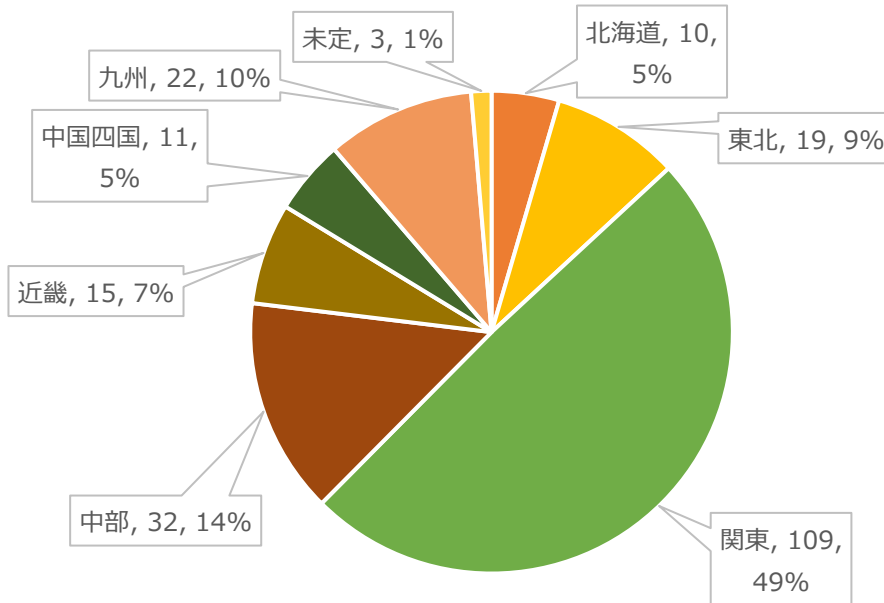
#### ①チーム員数、チーム員の構成

- ✓ 平成30年4月13日より募集を開始し、221の団体・組織等が参加申込み  
(平成31年3月15日時点。令和元年5月31日時点では、239件)

チーム員の属性 (n=221)



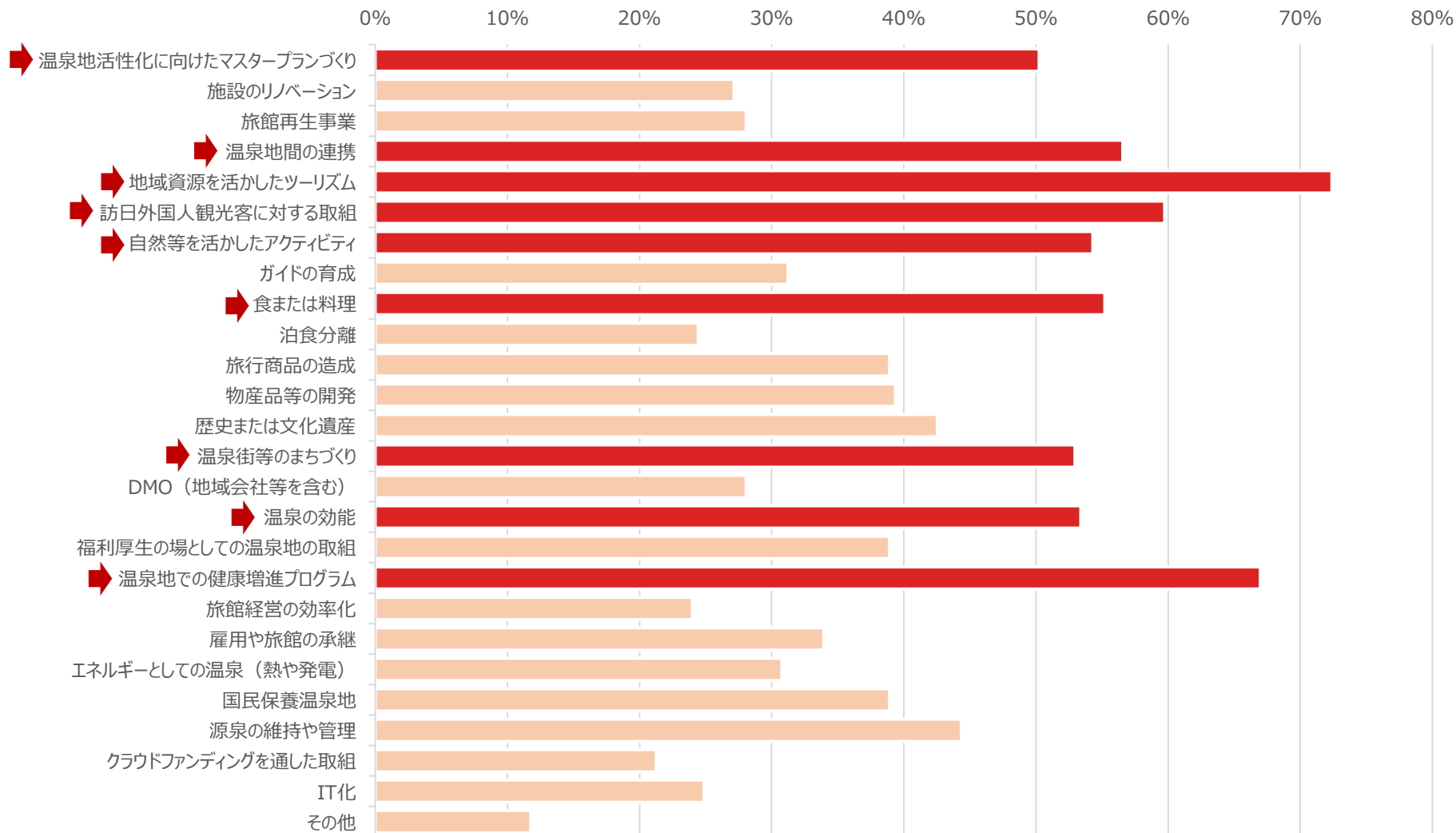
チーム員の所在 (n=221)





## ②チーム員の関心

(n=221) ※複数回答



(平成31年3月15日時点)

#### ③「チーム新・湯治」セミナーの開催状況

✓ 「温泉地の滞在を改めて考える」をテーマに、3回のセミナーを開催。

**第1回 温泉地でのイマドキの湯治を考える**

**第2回 温泉地を『リフレッシュできる環境』に再生する**

**第3回 温泉地×企業で、新しいスタイルの滞在を創出する**

#### 第1回「チーム新・湯治」セミナー

テーマ **温泉地でのイマドキの湯治を考える**

日程/時間 2018年12月5日(水)  
セミナー13:30-16:30／交流会16:45-17:30

プログラム  
内容・講師

- 1.開会挨拶
- 2.講師紹介
- 3.温泉地での過ごし方～全国各地の新・湯治の動き

#### 4.イマドキの湯治への展開

##### 【温泉地全体での湯治】

事例1.草津温泉の新・湯治について

講師:中澤敬 様(草津温泉観光協会 会長)

##### 【宿からまちへの湯治】

事例2.柳屋のこと 鉄輪のこと

講師:橋本栄子 様(サリーガーデンの宿 湯治柳屋 代表取締役)

##### 【宿での湯治】

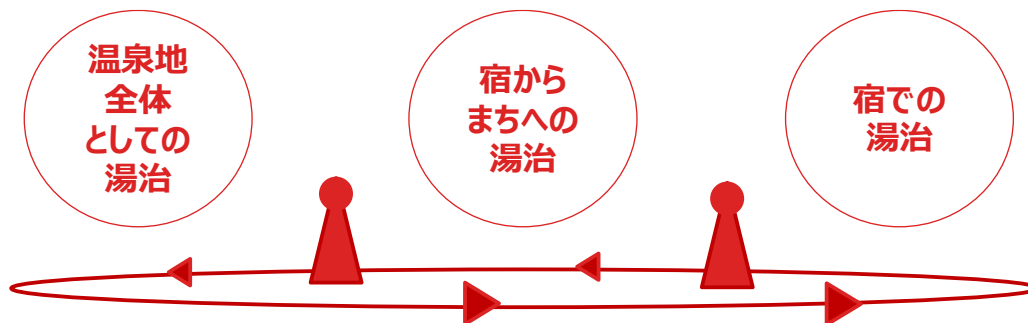
事例3.観音温泉の湯治

講師:鈴木和江 様(滝野川自動車・観音温泉 代表取締役社長)

- 5.意見交換
- 6.閉会挨拶

## 第1回 温泉地でのイマドキの湯治を考える

### 趣旨



古くからの湯治に加えて、各時代時代でその時々のニーズや未来の過ごし方を掴み取りながら、新たな湯治、その時々のイマドキの湯治に取り組み、その積み重ねが現在の草津温泉の多様な湯治へとつながっています。



鉄輪温泉の昔の湯治を復活させたいとの想いで宿を引き継がれ、平成26年に『湯治柳屋』としてリニューアルオープン。昔からあったものを現代人の感性に響くカタチで設え表現するとともに、思い思いにお客さまが過ごせるよう、多くの選択肢を用意。さらに宿をまちへ開き、まちの人と繋がりながら、まちに「湯治」を展開されています。



観音温泉は、山の中の秘湯温泉地として、その泉質や周辺の敷地を活かしながら、お客さまや社会のニーズを捉えて、多角的な事業を展開されています。例えば、飲泉、湯治客室の設置のほか、全調理への温泉水の使用、温泉水を使った化粧品や純米酒づくり、温泉を利用したハウス野菜の栽培とその収穫体験など。

出典：http://www.kannon-onsen.com/

## 第2回「チーム新・湯治」セミナー

テーマ **温泉地を『リフレッシュできる環境』に再生する**

日程/時間 2019年1月25日(金)  
セミナー13:30-16:30／交流会16:50-18:00

プログラム  
内容・講師

1. 開会挨拶
2. 講師紹介
3. 『リフレッシュできる環境』への再生に向けた温泉地の動き
4. 温泉地における取り組み～環境と財源の視点から  
【民間の視点から】  
事例1. 東山温泉での3旅館一体同時再生と環境に関する取り組み  
講師: 深田智之様(株式会社くつろぎ宿代表取締役社長)  
【行政の視点から】  
事例2. 阿寒湖温泉における滞在環境づくりと財源確保に関する取り組み  
講師: 秋葉薫様(釧路市産業振興部阿寒観光振興課 課長)
5. 意見交換
6. 閉会挨拶



## 第2回 温泉地を『リフレッシュできる環境』に再生する

### 趣旨

- 温泉地に滞在することを通じて心身ともにリフレッシュし元気になってもらうためには、温泉資源のみならず、温泉街をはじめとした周辺環境を上手く活用していくことが重要。
- 本セミナーでは、自然、歴史・文化、食など活かした多様なプログラムの提供や地域の人々とのふれあいの舞台となる温泉地を、今後どのように『リフレッシュできる環境』に再生して“新たな過ごし方”を提供していくかをチーム員の皆さんと一緒に考えます！

### チーム員の皆さんと一緒に考えていきたい点

#### 財源・資金

- ・環境再生のための財源は？
- ・資金はどこから？経営状況は？

#### 短期と中長期での対応

- ・早急に対応しないといけない状況とは？
- ・中長期な方向性は？
- ・どこから始める？

#### 役割分担

- ・誰がどのような役割を担えばよい？  
(行政、団体、企業等)
- ・土地、建物等の所有関係は？

### 『リフレッシュできる環境』ってどんな環境？

## 第3回「チーム新・湯治」セミナー

テーマ

温泉地×企業で、新しいスタイルの滞在を創出する

日程/時間

2019年3月6日(水)

セミナー13:30-16:30／交流会16:50-18:00

プログラム  
内容・講師

1. 開会挨拶

2. 講師紹介

3. 温泉地で『時間や空間にとらわれない、新しい働き方』に関する、  
企業および温泉地の動向(調査報告)

講師:田原祐子氏(株式会社ベーシック 代表取締役)]

4. 各社の取り組み状況発表

事例1. 温泉地を第2のオフィスに～南紀白浜温泉の事例から

講師:八木重長氏(三菱地所株式会社ビル営業部専任部長)]

事例2. 温泉地でワーケーション、

オフサイトミーティングを実施した企業の事例

講師:東原祥匡氏(日本航空株式会社人財本部人財戦略部

ワークスタイル変革推進グループアシスタントマネジャー)]

事例3. 温泉の医用効果「働き方改革」と温泉地でリフレッシュ効果について

講師:前田豊樹氏(九州大学病院別府病院内科准教授)]

5. 意見交換

6. 閉会挨拶

## 第3回 温泉地×企業で、新しいスタイルの滞在を創出する

### 趣旨

- 温泉地は日常の喧騒から離れ、恵まれた環境や自然があるリフレッシュできる環境です。こうした環境の中で集中的にミーティングや研修を実施し、また、周辺の自然資源を活用したアクティビティを行い、地域の方々とふれあうことで、気分も爽快になり良いアイデアが生まれ、会話も弾み、労働生産性の向上やチームビルディングにも役立つとされています。
- 現在、IT企業をはじめ、さまざまな企業が、こうした発想を取り入れた、新しく、クリエイティブな働き方である、「テレワーク＝情報通信技術(ICT = Information and Communication Technology)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方」「ワーケーション＝Work & Vacation」「オフサイトミーティング＝職場を離れたプロジェクト&ミーティング」を実施し、その成果が注目されています。
- 本セミナーでは、実際に温泉地でオフサイトミーティング等を実施した企業及び温泉地からの事例調査から、温泉地×企業で、新しいスタイルの過ごし方を創出する可能性を、チーム員の皆さんと一緒に考えます。



→ 『温泉地の活性化』・『課題解決』にも繋がる、










新しい湯治スタイルのあり方×企業との連携

チーム 新・湯治 の意義

### 3.「チーム新・湯治」平成30年度活動報告

チーム新・湯治

#### (参考) セミナー・交流会・展示を通じたチーム員の活動の紹介、交流

回	第1回	第2回	第3回
参加者	73名	52名	74名
セミナー			
展示			
交流会			



チム新・湯治♨

- ✓ 平成30年度は、ニュースレターを2回発行。
- ✓ セミナーの開催結果やチーム員の活動状況等を紹介。 ※セミナー資料もHPで公開中

[illegible]



# 3.「チーム新・湯治」平成30年度活動報告

✓ 平成30年度は、メールマガジンを毎月発行(計8回)。

	Vol.1(8月)	Vol.2(9月)	Vol.3(10月)	Vol.4(11月)
1. 最近の環境省の取組み	～全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト参加温泉地を募集！	①チーム員名簿(簡易版)の公開について ②新・湯治セミナー in 阿賀野市 の開催について(10月19日)	①平成30年度 新・湯治セミナーのご案内 ②チーム員名簿(詳細版)及びバナー画像の公開 ③温泉熱利用設備の導入等に係る補助金の紹介	①平成30年度 新・湯治セミナーのご案内【再】(講師が追加になりました) ②新・湯治セミナー in 阿賀野市 報告 ③全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクトの現場から(開拓ふくろふ乃湯・北海道温泉研究会)
2. チーム員からの情報提供・案内	「チーム 新・湯治」運営事務局の紹介	③スパ&ウエルネス ジャパン2018開催(9月10-12日) ※UBMジャパン(株)主催 ④一般社団法人ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構様からの案内	④高齢者入浴アドバイザー協会様からのご挨拶 ⑤アニメツーリズム in 岐阜様からのご挨拶 ⑥ONSENアカデミアの開催について(11月10日(土)) ⑦健康と温泉フォーラム 月例研究会のお知らせ(11月15日(木))	④健康と温泉フォーラム 月例研究会のお知らせ(12月21日(金))
3. その他案内	メールマガジン配信希望内容の募集について		—	—
	Vol.5(12月)	Vol.6(1月)	Vol.7(2月)	Vol.8(3月)
1. 最近の環境省の取組み	① 第1回「チーム 新・湯治」セミナーの開催結果について ② 第2回「チーム 新・湯治」セミナーの開催について	① 第2回、第3回「チーム 新・湯治」セミナーの開催について【一部再掲】	①「温泉熱の有効活用促進セミナー」のご案内 ② 第2回「チーム 新・湯治」セミナーの開催結果について ③ 第3回「チーム 新・湯治」セミナーのご案内	① 第3回「チーム 新・湯治」セミナーの開催結果について ②「温泉を活かした健康作りフォーラム」の開催結果について ③2019年度「チーム新・湯治」活動予定について
2. チーム員からの情報提供・案内	③「温泉を活かした新しい健康作りフォーラム」の開催について ④一般社団法人日本温泉協会より「温泉検定」のお知らせ ⑤健康と温泉フォーラム 月例研究会のお知らせ(1月22日(火)) ⑥UBMジャパン株式会社より第1回セミナーの紹介及び「健康博覧会2019」のご案内	② チーム員の『ヘルスツーリズム認証』取得について ③ 旅して日本プロジェクト(温泉総選挙2018事務局)からのお知らせ ④ 健康と温泉フォーラム 月例研究会のお知らせ(1月22日(火)、2月14日(木))	④ 株式会社SAGOJO様の取組みについて ⑤ BIGLOBE旅行(みんなで選ぶ 第11回 温泉大賞)からのお知らせ ⑥ 健康と温泉フォーラム 月例研究会のお知らせ(2月14日(木)) ⑦ 日本温泉協会からのお知らせ(「お風呂でのエチケット」ポスターについて)	④ BIGLOBE旅行(温泉大賞アンバサダー)からのお知らせ ⑤ 健康と温泉フォーラム 月例研究会のお知らせ(3月26日(火))
3. その他案内	—	—	—	⑥ 観光庁からのお知らせ